

平成28年度の事業総括を終えて感じること

福岡東在宅ケアネットワーク 世話人代表代行

田中 範江

平成20年、伊藤新一郎世話人代表のリーダーシップのもと、当初メーリングリストと多職種事例検討会という形で始まった当該ネットワークも、平成25年度より行政・区医師会にもご参加いただいたことで、市民シンポジウムでの公演（いっちゃん座）、病院との協働開催による地域医療連携研修会開催など、さらに発展してまいりました。

平成28年度は、東区薬剤師会のモデル事業（患者のための薬局ビジョン推進事業）の共催という形で、当該ネットワークメンバーが講師となる研修会を実施しました。その研修会によって在宅医療での薬剤師の意識の変化を促し、在宅医療への多職種連携との顔が見える関係作りができたのではないかと思います。筆者が所属しております薬剤師会が当該ネットワークの創世期から関わってきたことに深いご縁を感じております。

当該ネットワークはメンバーの皆様のご理解と関係団体のご協力のおかげで地域社会に周知され、在宅医療に携わる方々から支援を求められることが多くなってきました。当該ネットワークはいわゆる「創成期」の段階が終わり、「成熟期」の段階になったのではないのでしょうか。具体的に挙げるならば、恒例となりました市民シンポジウム（いっちゃん座公演）では在宅ケアチームの仲間づくりに留まらず、市民活動につながっていくようなもの（たとえば地域ボランティア育成など）となれば、地域社会にとってより意義のある事業になりうる可能性があると感じています。また、これから始まる「ブロック支援病院や協力病院への支援」では、当該ネットワークメンバーの専門性を存分に発揮していただき、在宅医療に関わる方々への支援となることを期待します。さらに、平成29年度より、福岡市医師会在宅医療医会との共催による地域内病院での多職種連携研修会の実施が決定しました。また、病院以外でも研修会を行うことで、より幅広い研修会になることが期待されています。

「在宅ケアサービス利用者および、その家族が在宅ケアサービスの支援を受け、地域で尊厳ある快適な生活を営むことができる」という当該ネットワークの目標の実現に向けて、今後も共に学び合い、協働して参りましょう。